

# 外来化学療法部

## ■ スタッフ

部長	齋藤 佳菜子
副部長	都丸 敦史、北嶋 貴仁
看護師	石井 美紀
薬剤師	石橋 美紀、山田 真帆

## ■ 診療科の特色・診療対象疾患

### 1. 外来化学療法部とは

近年、がんに対する薬物療法は、目覚ましい進歩を遂げ、外科手術、放射線治療、内視鏡的治療、IVR 的治療とともに重要な位置を占めています。様々な腫瘍で薬物療法が実施されていますが、その多くが、生活の質（Quality of Life : QOL）の観点から外来治療として実施されています。このような背景から、2015 年 5 月に開設された新外来棟では、外来化学療法部は治療ユニットを 34 に増床し、増加する外来治療に適切に対応できるよう体制整備を行いました。

### 2. 主な診療対象疾患

がん薬物療法を専門とするスタッフ（医師、看護師、薬剤師）のもと、関係する診療科と緊密に連携して治療を行っています。

標準的治療のほか、新規治療開発のための臨床試験、治験なども受け入れております。

主な対象疾患は、治療・領域別に分けますと下記のように分類されます。

- 固形腫瘍（肺癌、乳癌、消化管腫瘍、肝癌、胆道癌、膵癌、婦人科癌、泌尿器癌、頭頸部癌など）に対する化学療法、分子標的治療、免疫療法
- 悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など造血器腫瘍に対する薬物療法
- 小児がんに対する薬物療法
- 炎症性腸疾患・リウマチに対する薬物療法

## ■ 診療体制と実績

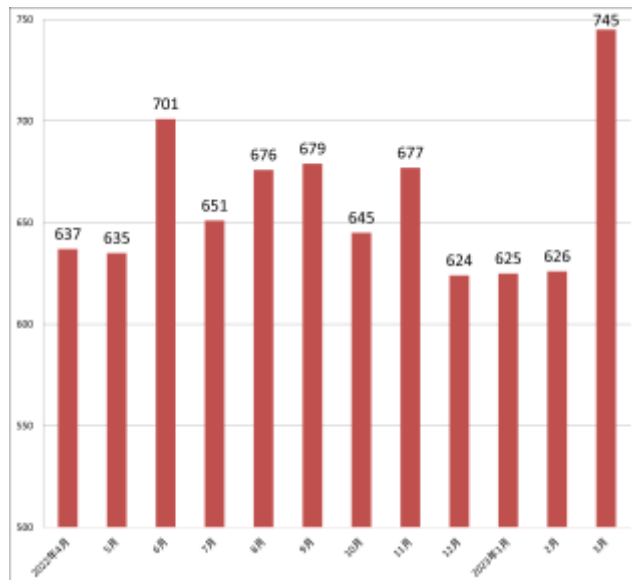
診療体制が整備された 2016 年以降は、地域がん拠点病院の一部門として、より高度で専門的な役割を果たせるよう、新たな取り組みを開始しました。

臨床試験・治験の外来治療の体制整備もその一つになります。治験などの治療においては、通常治療と異なり、治療中の厳密なバイタルのモニターや薬物動態の採血を要する場合があります。このような要望に対応するため、治験専用ベット・指示簿等の整備、

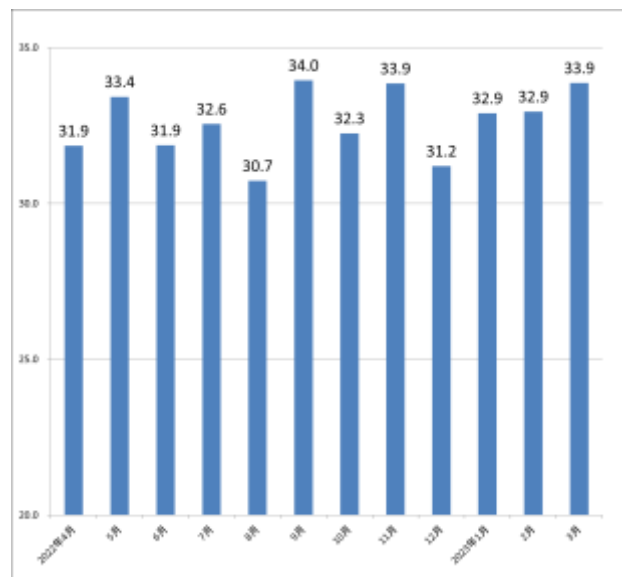
治験管理センターのスタッフとの連携を強化しています。

2022 年 4 月から 2023 年 3 月までの診療実績を以下に示します。（外来腫瘍化学療法診療料イ・外来化学療法加算件数）

- 年間の件数 7921 件
- 月別の治療実施件数 1 カ月平均 660 件



- 1 日平均月別件数 平均 32.6 件



- 診療科別の実施件数

腫瘍内科、肝胆膵外科、消化管外科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、産婦人科、腎泌尿器科の診療科において高い実施件数となっております。

また、関節リウマチや炎症性腸疾患の治療を担当する膠原病内科、整形外科、消化器内科の実施件数も増加しつつあります。

診療科名	脳内	整形外科	産婦	腎臓	小児	耳鼻	皮膚	脳外	消化内	呼吸内	腎内	血内	腫内	消化外	肝胆外	小児外	放射	リウマ	乳腺外	合計
2022年4月	6	14	24	30	0	6	1	2	65	53	1	37	194	96	93	0	0	15	0	637
5月	4	17	25	25	0	7	0	2	68	42	1	46	184	94	106	0	0	14	0	635
6月	2	16	44	36	3	6	1	2	69	52	1	37	209	91	117	0	0	15	0	701
7月	3	23	36	26	2	9	0	0	70	49	3	36	187	83	107	0	0	17	0	651
8月	5	19	34	24	4	12	0	0	61	53	2	47	189	96	110	2	0	18	0	676
9月	5	17	36	29	1	5	0	0	81	52	1	43	176	93	118	1	0	21	0	679
10月	2	18	46	30	0	12	1	0	57	54	1	33	182	95	95	2	0	17	0	645
11月	4	13	39	30	2	13	1	0	76	57	1	35	188	98	105	0	0	15	0	677
12月	5	13	39	26	2	12	1	1	60	55	1	28	157	97	106	2	0	19	0	624
2023年1月	2	9	36	38	2	5	0	2	69	46	1	24	190	87	97	0	0	17	0	625
2月	4	10	32	48	2	8	2	1	60	55	1	29	161	105	85	2	0	20	1	626
3月	3	14	34	43	0	14	2	3	109	67	1	31	186	109	103	0	1	24	1	745

● 経口抗がん薬サポートチーム

2020年度から「経口抗がん薬サポートチーム」の運用を本格的に開始しました。具体的な診療内容は、経口抗がん薬特有の副作用や日々のケアの注意点などを薬剤師、看護師が説明し、患者さんによっては内服中の副作用モニタリングも行います。また高額な分子標的治療薬についてはMSWの介入により治療費に関するサポートも行っています。毎日、午後2時から一人30分で最大4名まで対応できるようにしています。

■ 臨床研究等の実績

● 外来化学療法セミナー

複雑化するがん治療において、副作用管理はこれまでになく重視されています。そこで、支持療法に関する最新の情報を共有し、入院・外来治療のいずれにおいても質の高いケアが提供できるよう外来化学療法部主催（後援：三重大学がんセンター）で外来化学療法セミナーを2019年度から実施しています（コロナ禍の影響で2020年度は中断）。

2022年度の第1部では、ますます使用頻度が高まる免疫チェックポイント阻害薬の院内での使用状況とirAEに対する適応外医薬品の使用について、irAE対策チームを担当する薬剤部の2名の先生にご発表頂きました。第2部では鈴鹿医療科学大学附属桜の森病院 緩和ケア病棟の渡部秀樹院長より「桜の森病院での取り組み」として、院内の様々な取り組みや在宅医との連携などを含めて、ご講演を賜りました。今年度は現地開催とZoom配信を併用したハイブリッド形式で開催しました。外来化学療法部スタッフのみならず、多くの診療科医師、病棟看護師や薬剤師、ソーシャルワーカーなど、多くの職種の方々にご参加いただきました。

第5回

## 外来化学療法セミナー

2023年1月26日（木）18:00 - 18:55

三重大学病院 外来棟5Fホール

**第1部 18:00 - 18:15**

司会 三重大学病院 薬剤部 石橋 美紀 先生

当院の免疫チェックポイント阻害薬の  
使用状況

三重大学病院 irAE対策チーム  
薬剤部 世古口 典子 先生、水谷 栄梨 先生

**第2部 18:15 - 18:55**

司会 三重大学病院 外来化学療法部 齋藤 佳菜子 先生

鈴鹿医療科学大学附属  
桜の森病院での取り組み

鈴鹿医療科学大学附属桜の森病院 緩和ケア病棟  
院長 渡部 秀樹 先生

お問い合わせ 外来化学療法部・総合がん治療センター がん支援ユニット

▶ <http://www.hosp.mie-u.ac.jp/>（ホームページ）